

子どもたち あいどる	一四九号	発行 社会福祉法人 路交館広報部 発行責任者 尾 埜 健 二 編集 集 あいどる編集委員会(渡辺・稲) 〒533-0023 大阪市東淀川区東淡路2-7-5 TEL06-6321-3201 FAX06-6321-2977 ホームページアドレス https://www.rokoukan.or.jp 掲載の写真はアンケートに基づき掲載しています。
----------------------	-------------	--

誰もが自分らしく生きていける社会をめざして これからも活動していきます

2022年3月より社会福祉法人路交館の理事長に就任した尾埜健二です。

聖愛園には保護者として息子二人がお世話になり、路交館の障がい者支援の現場の一員として働いてきました。その中で、私自身が路交館の『『障がい』児共同保育』職員も含めた集団づくりに助けられて生きてきたという思いを強く抱いております。

路交館の理事長というものは、自分にとって身の丈に合わない大役だと思えます。しかし、路交館の子どもたち、利用者たち、さらには路交館に連なるすべての人々が自分らしく生きられる地域社会を目指して、路交館の職員たちはみな精いっぱい力を注いでいます。そんな職員たちの一番の応援者として頑張らせていただこうと思っています。

路交館は『『障がい』児共同保育』というスローガンを掲げて50年以上の間、すべての子どもたちがそこにいていい、自分らしくいていい、そんな子どもたちの世界を目指した取り組みを行ってきました。現在は、障がい者支援の事業も広く展開するようになり、『『障がい』児共同保育』の目指すものは子どもたちの世界だけではなく、障がい児者を含めたすべての人々の集まりにおいて、誰もがそこにいていい、誰もが自分らしくいていい、そんな社会を目指す活動となっています。

2019年に桜の園放課後等デイサービスにおいて、一人の児童が亡くなるという事故がありました。かけがえのない命を失った悲しみの中において、私たちはこの児童は桜の園で自分らしく生きることができたろうか、そのために職員はどれだけのことができ

ただろうかということ、ずっと考え続けてきました。その結果、職員である私たちの役割は、人々がチャレンジしようとする気持ちをもって生きていくことを支援することだということに改めて気づかされました。当然のことながら防げる事故は防がなければなりません。しかし、人と人との交わりの中で、自分らしさを模索しながらチャレンジしていく人生を支援する過程において、あらゆるトラブルをすべて取り除くことはおそらくできないでしょうし、人と人が交わるからこそ起こる様々なトラブルに向き合い、乗り越えることで子どもたちは、私たちは、成長していくのだと強く信じております。

今回約3年ぶりに広報紙「あいどる」を発行します。この間多くの方々にご心配をかけたこと、申し訳なく思っております。少子化をはじめ、社会の構造は50年の間に大きく変化していますが、私たちが求める人間の幸せ、あるべき人々の姿は変わりません。お互いを認め合いながら、誰もがそこにいていい、誰もが自分らしくチャレンジしていく気持ちを失わずに生きていける、そのような社会を目指して、路交館はこれからも活動していきます。

路交館を見守ってくださる皆様には、これからも路交館の活動にご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



社会福祉法人 路交館 理事長 尾 埜 健 二

～幼保連携型認定こども園聖愛園・幼保連携型認定こども園あすなろ 学童保育(つくし・杉の子)・児童発達支援どんぐり～

幼保連携型認定こども園聖愛園、幼保連携型認定こども園あすなろ、小学1年生から6年生までの学童保育（つくし・杉の子クラブ）、東淡路子ども館、児童発達支援どんぐりがあります。朝7時から夜22時までの保育を行い、休日保育も行っているので365日開園しています。

今年も桜の花がきれいに舞う中、聖愛園・あすなろの入園式を迎える事が出来、沢山の可愛い子ども達が仲間入りしました。在園児の子ども達も進級し、それぞれ一つ大きくなってドキドキしながらも、新しい生活を楽しんでいきます。新1年生が加わりさらにパワーアップした学童保育や、どんぐりにも新しいも子ども達が来て、それぞれの部署が賑やかに新年度をスタートしましたよ！職員もフレッシュな新人職員を迎え入れ（学童には卒園児がアルバイトにも来てくれています！）老若男女沢山の職員と、可愛い笑顔がいっぱいの子ども達で活気溢れる淡路聖愛園拠点です！

幼保連携型認定こども園 聖愛園
主任 澤田 直美



～幼保連携型認定こども園北丘聖愛園～

「自分らしく たくましく 共に生きる力を育てます」

北丘聖愛園は豊中市新千里北町地域にあり0歳児から5歳児まで167人のこどもが在園しています。障がいをもっている子どもも、持たない子どもも共に生活や遊びで育ちあい自尊感情と人への信頼感を育み、様々な経験を通して「自分らしく、たくましく生きる力」「違いを認め、共に力を合わせることができる子ども」を育てる教育・保育を行っています。毎日の活動は園庭や近隣の公園で自然と触れ合いながらのびのびとあそぶ姿がたくさん見られます。そして、保護者同士の繋がりも作れる場としてクラス懇親会、うんどう会や生活発表会などの園の行事、保護者会協賛で行う納涼会の参加などを通して子育てが大変なだけでなく、楽しみも感じられるようになるような取り組みをおこなっています。

幼保連携型認定こども園 北丘聖愛園
園長 新山 妙子



～幼保連携型認定こども園豊新聖愛園・豊新つくしクラブ～

幼保連携型認定こども園 豊新聖愛園と学童つくしクラブ（1年生～6年生）は大阪で唯一、全国でも数少ない24時間開所している園です。夜間も就労する保護者の子どもたち一人ひとりがかけがえのない存在として育ちあい「子どもが主体的に育つ教育・保育」を目指して保育を行っています。障害を持つ子も持たない子も共に生きる「障がい児」共同保育の理念のもと、自尊感情と人への信頼感を育み、いろいろな経験を通して「たくましく生きる力」の基礎を培う保育を行い、子ども同士の育ちあいを保護者と共に見守り、子育てが楽しく豊かなものになるよう行っています。

幼保連携型認定こども園 豊新聖愛園
園長 小西 雄太



～東淀川区子ども・子育てプラザ（ファミリーサポート事業・子育て活動支援事業・地域子育て支援拠点事業）～

東淀川区子ども・子育てプラザって？！

プラザは大阪市内24区にある子育て支援の施設で、大阪市委託事業であるプラザ（東淀川区）を路交館が受託し7年目になります。では、具体的にいうと、1つは、乳幼児親子が安心安全に遊べる広場を設定し、親同士、子ども同士の交流、職員とのコミュニケーションから相談や地域資源情報の発信など、プラザの利用をきっかけに地域での子育て力に繋げてもらいたいという思いで営んでいます。広場だけでなく親子で楽しんでもらうイベント、保護者のリフレッシュ講座や学びの講習なども企画しています。

2つは、小学生から高校生まで集える場として開放しています。体験イベントやクラブ活動など、異年齢他校の子ども達がかかわる事で生きる力が芽生えるような企画をしています。プラザに来るには少し遠い地域への出前イベントも企画しています。

3つは、地域で子育てを支えているサロン（広場）の後方支援として、訪問や出前講座などを企画し、それぞれの地域スタッフと関わっています。また、地域力を活かしたファミリー・サポート・センター事業（相互援助活動）も担っています。会員システムで子育て親子を地域で支えている事業です。

プラザは、次代を担う子ども達の健やかな育ちと家庭や地域の子育てを応援しています。

まだまだ伝えきれないのですが、一番は、誇りをもって「プラザは本当に素晴らしい施設なんです」という事です。

マネージャー 山原 明子



～ウイリッシュ(生活介護)・ほっとコミュニティういる(就労継続支援B型)・ ういずサポートセンター(居宅介護等)～

◎ウイリッシュ（生活支援介護事業）

生活介護とは、常時介護が必要とする方に対して日常生活面での支援をしながら創作活動・軽作業などを提供する事業です。

ウイリッシュでは「利用者主体や社会参加」を目標に自社製品の販売や毎年恒例のウイリッシュ旅行の企画などみんなで考え、達成感ややりがいを感じる事を日々大切に活動しています。 文責 尾崎 彩

◎ほっとコミュニティういる（就労継続支援B型事業）

通称「ほっと」は、淡路聖愛園・豊新聖愛園の掃除や、地域のマンション・市営住宅の掃除を請け負う掃除班と、法人内のこども園・グループホームの洗濯業務を請け負うリネン班、地域の窓口となっている「ここち珈琲店」で接客業務を担当する喫茶班に分かれ、それぞれの班でメンバーさん達が責任を持って、協力しながら日々作業に取り組んでいます。 文責 神谷 かおり

◎ういずサポートセンター

（居宅介護支援事業…移動支援、行動援護、同行援護等）

〴〵自分を大切に生きるため、小さな一歩から始めたい、

障がいのある方とご家族のそんな声にこたえられるようみなさまをサポートしていきたいと願っています。

文責 岸田 美夏



～ういず守口(多機能型事業所)・ういず滝井(多機能型事業所)・ ういずサポートセンター守口(居宅介護等)～

「多様性を認め合いつつ、仲間と共に社会参加を目指します！！」

ういず守口（生活介護、就労継続B型、就労移行）は地下鉄太子橋今市駅近くに、ういず滝井（生活介護、就労継続B型）は京阪滝井駅近くにそれぞれの事業所としてあり、連携を取りながら日々の中活動（仕事はもちろんの事、メンバー旅行や運動会、ミュージカル活動等）を行っています。

ういず守口は40名、ういず滝井は25名の幅広い年齢層、様々な障がいのある方が利用されています。両事業所とも賑やかな雰囲気の中、仕事（内職、菓子製造・販売、施設外就労等）を通して、仲間関係を構築し、その仲間と共に社会参加していく事を目的としています。

また、ういずサポートセンター守口（移動支援、行動援護、同行援護等）はういず守口と同じ場所にあり、障がいのある方の「ワクワク・ドキドキ体験」をヘルパーがサポートしています。

ういず守口 主任 徳野 祐基



～桜の園(多機能型事業所)・わかりてヘルパーステーション桜(居宅介護等)・相談支援事業所さくら～

桜の園は守口市内にある多機能型事業所で、『桜の園』（生活介護、就労継続支援B型）と『わかりてヘルパーステーション桜』（居宅介護、移動支援、行動援護、重度訪問介護、同行援護）と『相談支援事業所さくら』（特定相談支援、障がい児相談支援）の日中活動・居宅・相談の3つの事業所があります。

桜の園は守口市より移管を受けて14年目になり、無認可の作業所時代から廃品回収や牛乳パック回収などの仕事を通して、仲間と共に地域と繋がっていくことをやっています。

しかしながらコロナ禍で地域との関わりが少なくなりましたが、桜の園としてこれからも地域と繋がっていく活動をどんどんしていきます。自分たちも社会参加し、地域の一員として、自分たちのやりたいことを仲間と共に自己決定していけるようにたくさん話し合って思いをぶつけて実現していきたいと思います。

『わかりてヘルパーステーション桜』では、利用者が社会参加として余暇を楽しむために一緒にお出かけしたり、通院などのサポートをしています。

『相談支援事業所さくら』では障がい児者の日常にまつわる様々な相談に対応したり、利用者が使っている支援が本人の希望通りなのか、利用者や事業所と話しながら計画を立てています。

いろいろな事業があり、どれも利用者が自立し、地域で生活していくためには必要なものだからこそ、利用者がいきいきと楽しく生活できるように支援者も毎日楽しくサポートしています。

管理者 森沖 恵美



～児童発達支援センターわかくさ～

(児童発達支援さくらんぼルーム・放課後等デイサービスポプラ・保育所等訪問支援・相談支援事業)

児童発達支援センターわかくさとは

2012年4月、大阪市東淀川区大道南の地に「児童発達支援」「放課後等デイサービス」が創立され翌年に「児童発達支援センター」の指定を受け「保育所等訪問支援」や「障がい児相談支援」の事業を加えて運営しています。

●児童発達支援さくらんぼルームは、「ことばが遅い」「落ち着きがない」「こだわりが強い」等々子どもの発達・発育に不安や悩みを抱えておられる保護者の方に寄り添い、一人一人の持っている「力」をのばすこと、集団の中で適応していけることを目指し、それぞれの子どもが持っている課題に対して個別に考え、保護者の方の思いを大事にしながら保育を行なっている所です。

●放課後等デイサービスポプラは障がいのある中・高生の放課後や長期休みを友だちと過ごし、日々の活動を通して経験を深め仲間作りをしています。年齢が上がってくるとともに、子どもだけで遊びに行ける範囲は自然と広がっていきます。しかし、障がいがある子どもたちはなかなかそれが叶いません。そこでポプラでは色々な経験（買い物・クッキング・お出かけ・キャンプ等々）をし楽しんでいく所です。

●保育所等訪問支援事業は、障がいや発達に心配のあるお子さんが在籍している保育所やこども園、幼稚園に訪問し、個々の発達の特性に配慮する点など、保護者・担当職員と協力、連携を図り、お子さんが楽しい集団生活を送ることが出来るよう支援する児童福祉法に基づいて行っている福祉サービスです。

●相談支援事業（計画相談・障がい児相談）は発達が変わり目など気になるお子さんの保護者の方と一緒に、希望される生活や課題等を検討、対応出来る適切な福祉サービスを提案しています。

管理者 井本 敏子



～グループホーム(共同生活援助)～ （ういるハウス・ういるホーム）

“グループホーム”ってこんなところ

グループホームは文字通り『共同生活住居』。様々な障がいをもった利用者さんたちが共に暮らす生活の場です。

路交館のグループホームは、大阪市内に7住居、守口市内には4住居、計11住居あります。

○大阪市内のグループホームは【ういるハウス】

・ういるハウス清水、今市①、今市②、淡路①と淡路②、大道南①と大道南② の7住居

○守口市内のグループホームは【ういるホーム】

・ういるホーム八雲西①と八雲西②、青い鳥、はとポッポ の4住居

計11住居あり、それぞれに3名から6名の利用者さんが在住し生活されています。（総利用者数54名）

平日の日中は、ういず守口、ういず滝井、ウィリッシュ、桜の園などの仕事の場に赴かれ、夕方には各住居に帰って来られます。

グループホームは、利用者さんにとっての家であり、緊張がほどけ、『ホッとする』場所でもあります。

グループホームの利用者さん同士、また職員は、目には見えない情動、気持ち、思いが交差し、共に暮らし続けるもう一つの家族のようです。ごはんを一緒に食べたり、笑いあったり、励ましてもらったり、時として反目しあうこともあります。また交わるだけでなく、自分を大切にできる場所、自分だけの部屋もあります。

利用者さんたちが、当たり前で暮らしていける『障がい福祉のかなめ』と言える場所が、グループホームなのです。

文責 韓 和男

今後の予定

★日韓保育交流30周年記念行事

11月4日（土）

★「障がい児」共同保育50周年記念大会

2024年1月7日（日）



卒園児

23年度がスタートし、多くの子どもたちを新たに迎えるとともに、新人職員さんも入職しています。毎年何名かの聖愛園の卒園児が職員として戻ってきてくれるのですが、今年も2名の卒園児が路交館に就職しました。

聖愛園で育った子どもたちが大人になって、職員として働きたいと感じてくれる路交館であることをとても誇りに感じます。

この2名だけでなく、路交館から巣立った多くの子どもたちが、地域社会の様々な場面で活躍していることをお聞きしています。未来を支える子どもたちの健やかな成長のため、力を尽くしていきたいと思えます。

★寄附のお願い★

当法人の保育・活動にご賛同・ご支援いただける法人・団体・個人の皆様からのご寄附の協力をお願いしています。お寄せいただいた寄附金は、各施設の施設・設備整備、借入金の返済等に使用させていただきます。皆様からの暖かいご支援・ご援助を心からお願い申し上げます。

編集後記

皆様、いかがお過ごしでしょうか？

路交館「あいどる」の久しぶりの発行となりました。

「あいどる」とは、韓国語でアイ（子ども）・ドゥル（たち）「子どもたち」というそうです。

今後も、路交館の利用者のみなさんや子どもたちの笑顔の輝きがつながっていきますよう、また、各事業の情報や取り組み、魅力を皆様にお届けできますよう、あいどる委員一同、心を込めて取り組んでまいります。

担当：渡辺・稲